

2019. 5. 10

アルケミストの小部屋

あの長年親しまれた局所殺菌薬「赤チン」が水銀規制法により製造中止へ

あの「赤チン」が来年には店頭から姿を消すと。記事からの拾い読みです。

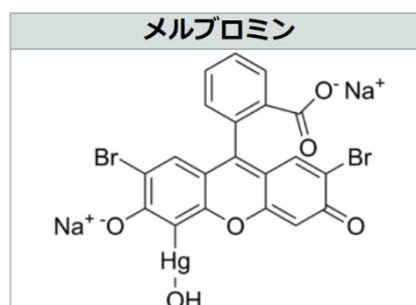
マーキュロクロム液 (Wikipedia)

メルブロミン (merbromin) は、皮膚・キズの殺菌・消毒に用いられる局所殺菌剤である。メルブロミンは有機水銀二ナトリウム塩化合物であり、フルオレセイン骨格を有する。

メルブロミンの水溶液 (メルブロミン液) は暗赤褐色の液体であり、商品名のマーキュロクロム液あるいは通称の赤チン (あかチン) として知られている。

メルブロミンの殺菌作用は1918年にジョンズ・ホプキンス病院のヒュー・ヤング医師によって発見された。ヨードチンキなどより傷にしみないとされ、全世界の家庭の常備薬の一つとして長く使われていた。しかし、1998年10月19日にアメリカの食品医薬品局 (FDA) によって、マーキュロクロム液の分類が「一般に安全と認められる」から「未検証」に変更されたことによってアメリカ国内での流通が事実上停止した。その後、ドイツでは2003年、フランスでは2006年に販売が停止された。

日本では、製造工程で水銀が発生するという理由から1973年頃に製造が中止されたが、常備薬として求める声は多く、海外で製造した原料を輸入することで現在も販売されている。2019年5月31日をもって日本薬局方から削除され、「日本薬局方」を記載したパッケージでは売れなくなり、あらためて承認審査を通さなければならない。2020年12月31日に水銀による環境の汚染の防止に関する法律によって国内での製造も規制される予定。



ねとらぼ 2019年04月15日

懐かしの「赤チン」、ついに市販品1社のみにも 製造も2020年で禁止 最後の赤チン製薬会社が語る思い

年配の方の中には、保健室でひざ小僧に塗ってもらった人も多いかもしれません。“赤チン”の俗称で知られる薬「マーキュロクロム液」が、2019年5月31日をもって日本薬局方 (厚生労働大臣が定めた医薬品の規格基準書) から削除されます。2020年12月31日には「水銀による環境の汚染の防止に関する法律」によって国内での製造も規制される予定で、

最盛期には 100 社ほどが生産していたという赤チンが、手に入れられなくなるのも時間の問題となってきました。

国内メーカーによる最後の赤チンとなった三栄製薬「サンエイ-S」

日本薬局方から外れた薬は現行の「日本薬局方」を記載したパッケージでは売れなくなり、あらためて承認審査を通さなければなりません。それでも 2020 年まで、マーキュロクロム液を局方外医薬品にリニューアルして製造販売し続けることを決めた製薬会社が、日本に 1 社だけ存在します。1953 年に創業した三栄製薬（東京都世田谷区）です。国内最後の赤チンメーカー、その思いを取材しました。

国内の赤チン製造事業者はマーキュロクロム液「サンエイ-S」を扱う三栄製薬のみとなりました。代表の藤森博昭さんに取材したところ、今後「サンエイ-S」は「日本薬局方」の表記を外した新しいパッケージにリニューアルし、2020 年いっぱいまでは原料がある限り製造し続けるといいます。

現在は医療機器、化粧品などが主力で、赤チンの売上は 1%にも満たないとのこと。それでもリニューアルしてまで期限ギリギリいっぱい販売し続けるのはなぜなのでしょう。

「やはり 60 代・70 代の赤チンファンのみなさんから、電話や手紙で『いつまでも作ってください』と激励をいただくからです。2020 年 12 月の規制はしょうがないな、とは思いますが、これだけファンがいるのに作れなくなるのは大変さみしいです。それでも規制が始まるまでは愛用者のために製造し続けようと思います」（藤森さん）

なお、赤チンと並んで「ヨーチン」も懐かしい傷薬です。

ヨードチンキ (Wikipedia)

ヨウ素（ヨード）の殺菌作用を利用した殺菌薬・消毒薬のことである。

ヨウ素は水にはほとんど溶けないが、有機溶媒の一種であるアルコールに対しては比較的溶ける。ヨードチンキもヨウ素をエタノールに溶かしたもので、添加物としてヨウ化カリウム (KI) が含まれる。



という反応でヨウ素を三ヨウ化物イオンとしてイオン化させてさらに水溶性を増すのが目的である。ヨードチンキ 100 mL 中には 6 g、希ヨードチンキには 3 g のヨウ素が含まれる。